

東京日本語ボランティア・ネットワーク

日本語 NETWORK NEWS

＜第6号＞

〒162 東京都新宿区神楽河岸1-1 東京ボランティアセンター気付 TEL03-3235-1171

TNVNからもうひとつの新企画が誕生！

『市民による民主的なコミュニケーション作り研究会』

日本語ボランティア講習会の企画のために話し合いを重ねる中から、これまでのような机に向かって講義を聴く講習会ではなく、プロジェクトワークを中心とした新しい形の研究会ができたと言う声があがりました。そこで、この提案をもとに新たに『市民による民主的なコミュニケーション作り研究会』がスタートすることになりました。

私たちはボランティア活動を行う上で様々な問題に直面しています。それは在日外国人だけの問題ではなく、私たちの問題でもあります。この『市民による民主的なコミュニケーション作り研究会』では、外国人問題やボランティア全般に関わりのあるさまざまな場所を訪ね、こうした問題と深く関わっている人々との出会いを通じて、よりよいコミュニケーションとは何かを考えていきたいと思えます。具体的な進め方としては、参加者は数人のグループにわかれてそれぞれにテーマを選び、インタビューや見学を実施。また、必要に応じて講師を招いての講演やディスカッションも行う予定です。実際の内容については第1回のミーティングで参加者の話し合いによって決定したいと考えていますので、興味のある方はぜひご参加下さい。

- ◆日時／10月25日（水）午後2時～5時
- ◆場所／飯田橋セントラルプラザ 6階 視聴覚室
- ◆発起人／古川ちかし（国立国語研究所）、春原憲一郎（ATOS 海外技術者研修協会）
福田知行（日本大学）

日本語ボランティア基礎講習会を開催

（財）国際コミュニケーション基金（KDDグループ企業）から支給された助成金によって、日本語ボランティア基礎講習会が開催されることになりました。この講習会は日本語ボランティアを始めたばかりで教え方に悩む人達のために、ボランティアをする上で役立つ教授法などの基本にポイントをしぼって企画。週1回・3時間の講座の5回シリーズで、受講しやすい短期集中タイプの講習会となっています。

- ◆日時／10月4日（水）から11月8日（水）までの毎週水曜日午後1時30分～（10月25日を除く）
- ◆場所／飯田橋 セントラルプラザ
- ◆講師／有馬俊子（株）リ-I-ネットワーク主任日本語教師）
元橋富士子（津田日本語センター）
- ◆参加費／3000円（全5回）

*都合により、講習会のスケジュール・内容に変更がありました。詳細については別途ご案内します。

*この秋スタートのもう一つの講習会『日本語ボランティア育成講習会』については、次ページをご覧ください。



昨年の講習会の様子



日本語ボランティア育成講習会がスタート

(財)日本船舶振興会の平成7年度の援助金を受けて、今年も日本語ボランティア育成講習会が開催されます。これは日本語ボランティア活動をしているみなさんのブラッシュアップの機会として、資質と能力を向上させ活動をより充実させることを目的に企画。内容は昨年同様に、日本語教授法講座と相互理解講座の2部構成となっています。

今回はお勤めの方にも参加していただけるように、これまでご要望が多かった土曜日の開催としました。

◆日時/9月30日(土)から12月2日(土)までの毎週土曜日午後1時～5時

◆場所/国立オリンピック記念青少年総合センター

◆講師/〈日本語教授法講座〉西口光一(大阪大学)、元橋富士子(津田日本語センター)

山田 泉(大阪大学)、川口義一(早稲田大学)

〈相互理解講座〉木下理仁(神奈川県国際交流協会)、金子雅臣(東京都労働経済局)、原裕視(チームアクセス研究所)

小林悦夫(中国帰国者定着促進センター)、野元弘幸(埼玉大学)、柳沢好昭(国立国語研究所)

川添利幸(中央大学)、山崎美貴子(東京ボランティアセンター)

◆参加費/5000円(全9回・交流会1回含む)

TNVNサマーワークショップ、いよいよ開催!

すでにTNVN会員のみなさんにはお知らせした通り、サマーワークショップが8月26日(土)・27日(日)の両日にわたって開催されます。今回は、分科会・シンポジウム・懇親会・スポーツ大会など、内容もりだくさん。1日だけや午前・午後だけの参加も大歓迎ですので、たくさんの方々の参加をお待ちしています。

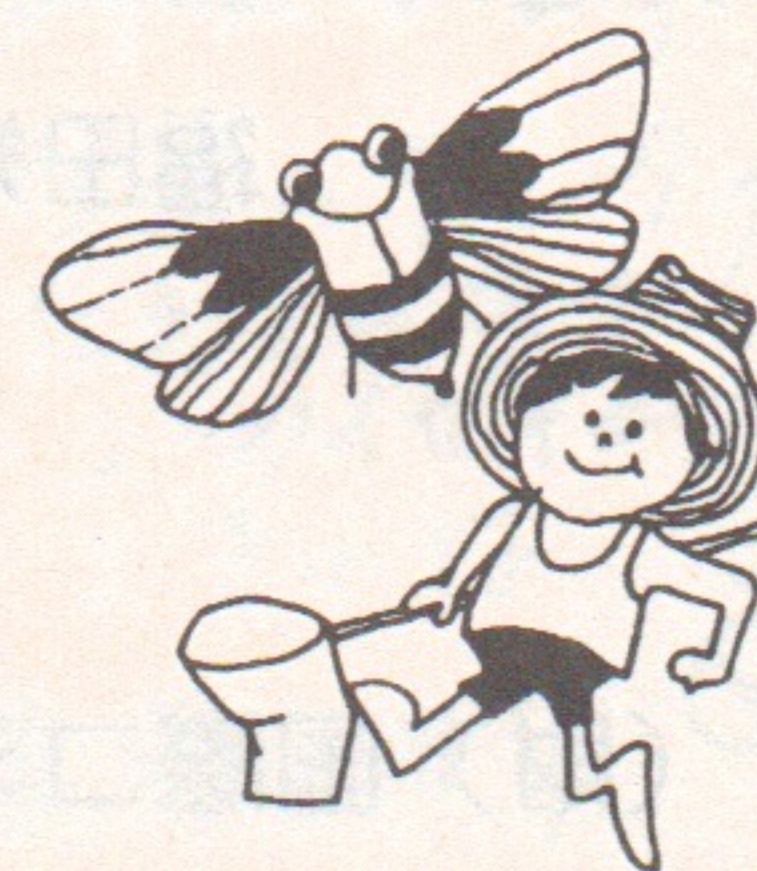
◆日時/8月26日(土)午前10時から

8月27日(日)午後5時まで

◆場所/国立オリンピック記念青少年総合センター

◆参加費/右記参照、宿泊は3000円(朝食つき・個室)

プログラム	午前(10:00~12:30)	午後(14:00~16:30)	夜間(18:00~20:30)
8月26日	場所 講堂 参加費 500円 「異文化接触 観察ゲーム」 柳沢 好昭氏 凡人社、アルク、スリーエーネットワーク社 のご好意で「教材展示」があります。	場所 講堂 参加費 500円 分科会Ⅰ「教え方Q&A」 分科会Ⅱ「教材の使い方」	場所 レセプションルーム 参加費 2000円(食事付き) 「懇親会」 普段会えない他団体の方 と情報交換などをしながら 交流しましょう。
8月27日	場所 講堂 参加費 500円 講演「外国人から見た 日本語」 ジム・パワーズ氏 パネルディスカッション 「これからの 日本語ボランティア」	場所 第1体育室 参加費 無料 国際交流スポーツ大会 バレーボール つなぎきなど 外国人の 参加を歓迎します!	



サマーワークショップでKDDが 国際電話フリーコールをプレゼント!

サマーワークショップではバラエティゆたかな内容で、みなさんと夏休み最後の週末を楽しく過ごしたいと期待しています。とくに、27日(日)の国際交流スポーツ大会ではKDD国際電信電話株式会社からもご協力をいただき、国際電話を無料でかけられるフリーコールや外国人のための生活便利帖(HINT)などを提供していただくことになりました。この機会に、外国人学習者やお友だちなど、たくさんの方をお誘いのうえご参加ください。

また、KDDによるサポートプログラムについても、みなさんのご協力により賛同者の数も順調に増加し、当ネットワークの活動に対する援助として役立っています。これからも国際電話を利用する友人・知人などに積極的に呼びかけていただき、ぜひ多くの賛同者を募るようご協力ください。なお、お送りした賛同者カードが足りなくなった場合は、TNVN事務局までハガキまたはFAXでお知らせください。

TNVN 日本語勉強会

第I期が終了しました

4/28~7/21 毎週金曜日（於：東京ボランティアセンター録音室）

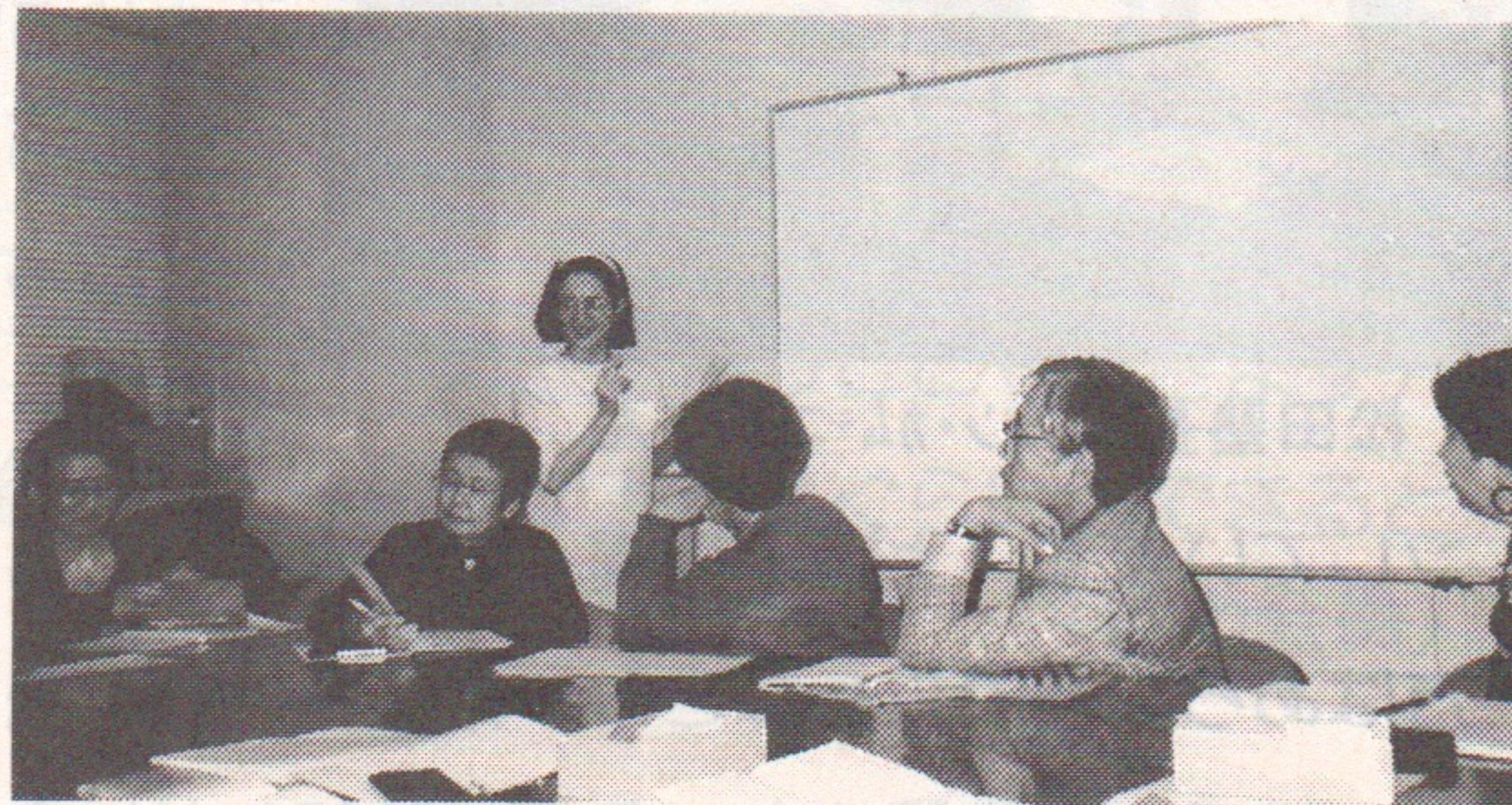
4月のミニ交流会での話し合いから誕生したTNVN日本語勉強会は、7月21日に第I期を終了しました。「日本語初級の教え方」をテーマに参加者の話し合いですすめる勉強会と、ゲストを迎えて日本語教育や国際交流にまつわる話をお聞きするセミナーを毎週交互に開催。毎回多数の会員の方々の参加で有意義な勉強会となったようです。

「養成講座は受けたけど、実際に教えるとむずかしくて」

「直接法って本で勉強したけど、、、」

「英語で説明できないんだけど、日本語をおしえたいんです」

そんな声を聞いて始めた今回の勉強会。私達の経験から生まれた知識でよければと始めた会ですが、毎回14~5名の参加があり、6回の予定があつという間に終わってしまいました。



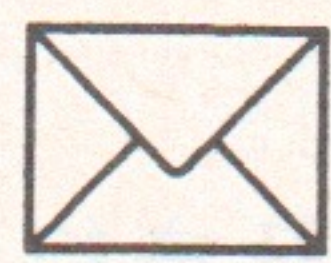
何も言わないで挨拶を教えるには？から始まり、こ・そ・あ・ど／形容詞を教えるときの問題点／動詞のグループ分けの教え方／て形の作り方／教科書の会話の教え方、など実際に先生と生徒という立場で教え方を研究したり、生徒が引っ掛かる問題点を皆で考えたり、日本語を教えるための基本を考えてきました。私達にとっても大変勉強になりましたし、今回参加された皆さんも教える楽しさ、難しさがわかり、また自信も持たれたのではと思います。今回は初級対象の勉強会でしたが、これをきっかけに、各グループが独自の勉強会を企画され、いろんなレベルで、いろんな方法で皆さんとの交流を深められればと思っております。私達もまた何かでお手伝いできればと思います。会にご協力くださいました皆様、有り難うございました。

（担当・グループMYST・松本／世古）

ミニ講習会 『入門日本語』の使い方 を開催

7月28日（金）午後2時から、東京ボランティアセンター録音室において、TNVN賛助会員の（株）アルクのご協力で、スポット企画のミニ講習会が開催されました。「テキスト『入門日本語』の使い方」をテーマに、アルクより派遣された日本語教師の朝倉さんを講師に迎えての講習会。当日は会員以外の方もまじえて多数の参加者で賑わい、熱心な質問があいつぎました。

シンボルマーク入り



TNVNオリジナル封筒 ができました！



会員のみなさんの応募のなかから決定したTNVNシンボルマークについては、『日本語ネットワークニュース第5号』でお知らせしましたが、この度、このシンボルマークを入れたTNVNオリジナルの封筒を印刷することができました。すでにTNVNからの郵便物などで会員のみなさんのお手許にも届いていることと思いますが、さわやかなライトグリーンの封筒です。

また、会員の甲斐武子さんのご協力によって、シンボルマークのスタンプもできました。今後、さまざまな場面で活用させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

Nice To Meet You!

会員団体のプロフィール

難民を助ける会の日本語教室「太陽塾」



松田塾長とフィン・カム・ユンさん

太陽塾（大田区）松田 覚

東京山手線目黒駅近くに「難民を助ける会」（相馬雪香会長）があります。この会は民間ボランティア団体（いわゆるNGO）で難民を支援のためのさまざまな活動をしています。

活動の一環として、在日定住難民のために日本語教室「太陽塾」を10年前から開設しています。ここではボランティアの教師が生徒にマンツーマンで日本語を教えています。塾は、盆と正月休み以外、朝から夜までいつでもオープン

しています。土曜日夜遅くまで勉強している組もあれば、日曜日の朝から授業している組もあります。平日の夕方はあちこちで机をはさみ、何組もの声が飛び交い、熱気が充満しています。教師と学習者生徒の相対授業ですから、相手の日本語能力、条件、希望などに応じてテキストも教え方も自由に設定できます。したがって普通の日本語学校では望めないきめ細かな授業ができます。教師は、人生経験豊かな熟年男性、現役のサラリーマン、家庭の主婦、女子大生などで、それぞれのペースで善意を提供しています。以前外国で親切にしてもらったので今度はお返しをしたい、自分のできる範囲で社会に役立ちたい、不慣れな環境で苦勞している難民の人の力になりたい——みな熱い心でボランティアを買ってでています。

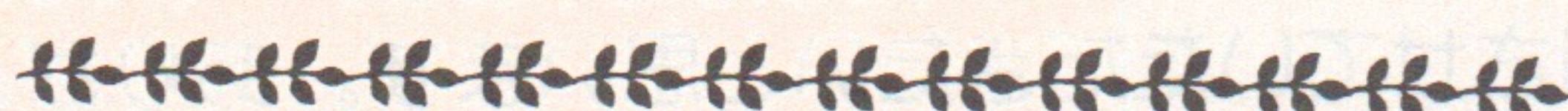
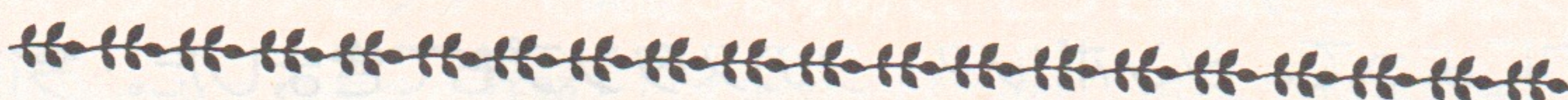
授業をすすめていくほどに、お互いに親しさが増し、仕事や家庭のことも話題にする間柄になり、なかには課外授業を試す組も出ています。生まれ育ちも年齢も経験も生活環境も異なる教師と生徒ですが、教え、教えられているうちに、単なる「日本語」の師弟を越えた人間同士の付き合いをする仲になります。

やっと一息つけました！

府中日本語サロン（府中市）西野 幸博

府中で「世界の音楽を楽しむ市民の会」を主宰している佐藤知子さんの呼びかけで発足してからもう二年半。佐藤さんの「教室という名称では堅苦しいし、教える側の力も怪しいからサロンにして楽しいものにしましょう」という提案であえて教室とは呼ばず、市の施設を借りて月2回の開設。初めは参加者の数も不安定でした。でも、家族的な雰囲気漂うサロンに近くの東京農工大の留学生の家族や日本人と結婚された外国人の方たちがポツリポツリ来てくれました。半年後に「府中国際交流クラブ」が運営に加わり、一年後ぐらいにやっと軌道に乗って、先生が足りない日があったり、節目のパーティーでは各国の手作り料理が並んだり、検定試験の合格者が出たりするようになりました。

今年四月、府中国際交流団体連絡協議会の6団体から人を出して作った実行委員会へ府中市から委託された「府中国際交流サロン」が開設されました。これは自由談話室と初級日本語教室の二部構成で、私たちと市民から募集した協力員約80名が手伝っています。このため、私たちのサロンは今後中・上級者を中心に活動することにし、生徒さんが減ったので手の空いた先生はしばらく日本語指導の勉強会をすることにしました。今まで運営や指導に忙しく、教える側の勉強がおろそかになっていたもので、ちょうどいい充電になりそうです。やっと一息つけました。



毎回々々新しい生徒が入ってくる

外国人と共に生きる大田・市民ネットワーク（大田区） 鈴木 昭彦

OCNet（外国人と共に生きる大田・市民ネットワーク）では、92年9月から日本語教室を始めました。最初は準備級ということで、ボランティア講師が1人、生徒がバングラディッシュ人2人という、本当にこじんまりした教室でした。今では、生徒の出身国は15ヶ国以上、生徒数は70名をこえ、ボランティア講師の数も25名余を数えるようになりました。毎回々々、生徒が増えてくる感じで、事務局はうれしい悲鳴をあげています。学期制ではなく、いつでも、そして子ども連れも受け入れていますので、外部にPRせずとも、生徒が口コミからでしょうか、日毎に??に増えている状態です。転勤や帰国、あるいは雰囲気合わないということで途中でやめる生徒ももちろん多いのですが、それでも会場や講師のやりくりは大変です。

大田区教職員組合会館を教室に、週3回月曜日、木曜日夜、および金曜日午前に合計15クラスで教えています。日本語を教えるだけでなく、交流しあう機会を大事にしようと、授業の合間や後で30分間のティータイムを設けています。授業に参加せず、これにだけ顔を見せ、いろいろおしゃべりやら、情報交換をしていく生徒もいます。課外活動(?)もさかんで、今年はこれまで、ボーリング大会、スケート、花見、サッカー、水族館見学、三浦海岸へのバス旅行へ行ったり、ビデオを鑑賞したり、本当に盛りだくさんです。

日本語を教えるだけでなく、こちらからも学ぼうと、生徒さんが先生になって中国語、タイ語などの教室も開いています。英語やタガログ語も教えています。元々、私たちは外国人向けの生活・労働相談、日本語教室、それに学習会やイベント実施を活動の3本の柱としてきました。これからはより多くの外国人スタッフとともに地域に根ざした活動を展開していくつもりであります。



日本語でユネスコ活動

目黒ユネスコ日本語教室（目黒区） 勝岡 由紀子

10年前、1985年開始のユネスコ講座「日本語教育研修講座」の終了後、ベトナム難民の要請を受けたことがきっかけで1987年にスタートした日本語教室です。この教室はあくまでもユネスコ活動の一部で、教える側も学習者もユネスコ会員で、教室を離れば同格です。学習者は覚えた日本語を使ってユネスコ活動に参加し、交流し、相互の習慣や文化を学びあいます。活動は、レクチャー、コンサート、バザー、キャンプなどの他、月例の「ユネスコ・サロン」——深川江戸資料館見学（写真）、和紙ちぎり絵、盆踊り、各国料理教室、ある時は自由なおしゃべりなど——があります。こうした活動を通して自然な日本語を身に付け、ユネスコの精神を理解し、さらにそれぞれの国のユネスコ活動へと発展して行ったらどんなに素晴らしいことかと期待しています。

日本語教室は、午前クラス月・木（7クラス）土（3クラス）夜クラス火（3クラス）学習者約90名、多国籍に渡っています。各クラスとも、和気あいあい、和やかな雰囲気です。教える側の学習は、年一回30時間の「日本語教育研修講座」が今も続いています。その他に月一回交流会と意見交換を目的に「日本語勉強会」を開いています。ボランティアで日本語を教えるって・・・??と考えながら和やかな、楽しい雰囲気だけにすいこまれないよう、心して質のよい授業をと心がけています。



ZOOM IN

日本語ボランティアレポート

中国帰国者定着促進センター

埼玉県所沢市並木6丁目4番2号

「中国帰国者」と聞いて思い出すのは、ニュースで見かける「中国残留孤児の肉親探し」です。でも、肉親探しや対面の様子については報じられているわりに、中国残留孤児の皆さんのその後や帰国してからの生活については、案外知られていないのではないのでしょうか。そこで今回は、中国から永住帰国したみなさんの日本での適応をサポートしている（財）中国残留孤児援護基金の中国帰国者定着促進センターをお訪ねしてみました。

幅広い研修で中国帰国者の生活をサポート

この日は梅雨とは思えないほどの快晴のもと、高田馬場から急行で40分程行ったところにある航空公園駅へと向かいました。その駅名の通り近くには所沢航空記念公園があり、交通の便利なベッドタウンといった印象。街路樹が涼しげな影を落とす駅前メインストリートを抜けたところに、中国帰国者定着促進センターがあります。センターには研修棟と宿泊棟があり、門を入るとすぐ『自転車』という看板のある自転車置き場が目について、ここが日本の中の「小さな中国」であることが感じられました。今回は、やさしい笑顔が繊細そうな雰囲気のある池上摩希子教務係長とよく通る声と口元の髭が印象的な小林悦夫教務課長にお話をうかがい、センターを案内していただきました。

帰国直後から4か月の研修を実施

昭和47年の日中国交正常化とともに、戦後、中国に残留を余儀なくされた中国残留孤児たちから自分の身元や肉親を探し求める声が高まりました。そのため、昭和56年3月から訪日肉親探しがスタート。昭和58年4月には、中国残留孤児の援護事業を実施するための団体として、厚生省の外郭団体である（財）中国残留孤児援護基金が設立されました。そして、中国から帰国した孤児やその家族の日本での適応をサポートするための施設として、昭和59年2月にこの中国帰国者定着促進センターが開設されたのです。

ここでは、国費で永住帰国した家族に対して帰国直後からの4か月にわたって、日本での生活に適応できるよう日本語教育や生活指導などを実施しています。帰国する家族の一世帯の平均人数は、4～5人。中国残留日本人孤児・婦人本人とその配偶者、それと肉親一家族の同伴が認められています。これは、歳月の経過とともに帰国者の高齢化が進み、本人だけでは日本人社会での自立が困難であることから二世の同伴が認められた

ものです。

現在は、年に3回（2、6、10月）、それぞれ100人前後が入所。この6月には、29世帯111人が入所しています。4か月という短い期間で日本語や日本事情などさまざまな研修が行われるということで、センターの職員のみなさんの多忙ぶりがうかがえます。



必要に応じて研修内容もさまざま

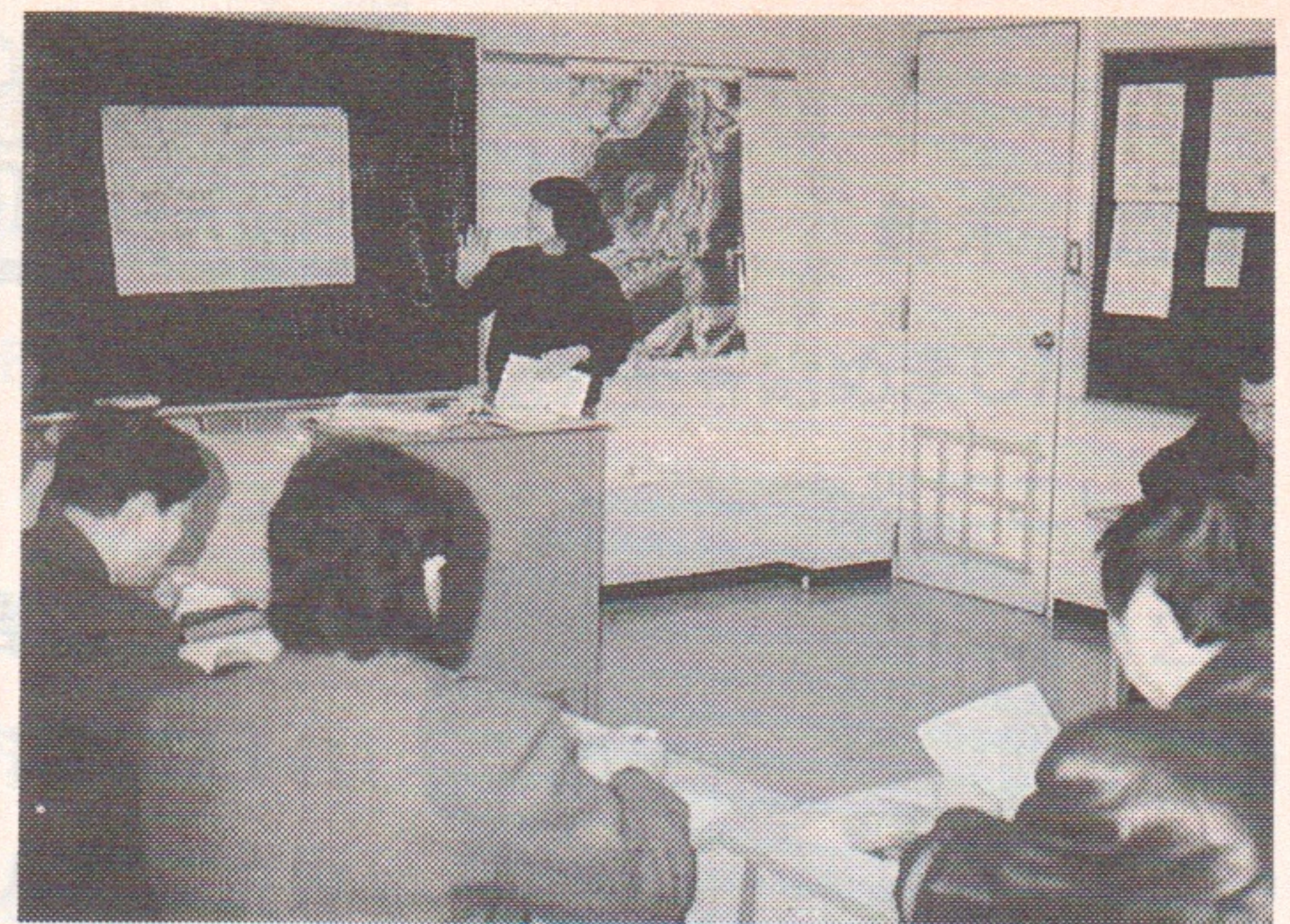
このセンターの最終目的は、「異文化適応」。この「適応」とは日本社会への同化ではなく、「異文化の環境において環境との相互作用のもと、自己実現を目指す課程」をいいます。そのため、単に道具としての日本語や生活習慣の伝授ではなく、異文化のもとでの学習者の自己実現を援助することが目的です。

このような考え方から、異文化理解を促進するための座談会、日常生活場面での行動力を養成するための体験的な問題解決学習法などを、文型練習ドリルなどの基礎トレーニングと並行して実施して、4か月間のカリキュラムを構成しています。

クラスは学習者の世代別に編成され、一クラス4～10人。クラスごとに担任の講師がついて、毎週の時間割りをアレンジしています。月曜から金曜日は一日に6時限、土曜日は宿泊棟で3時限の研修があります。

この日見学させていただいた授業では、学齢期の児童（小学校低学年くらい）のクラスではセンター付近の地図を使って場所の名前を学習。先生は日本語と中国語を上手に使い分けて授業を進めていました。青年のクラスではフラッシュカードを利用して文型練習。大人のクラスとなると、買い物のリストを配布してあたえられたものを実際に買ってくるという生活に密着した授業でした。年代によって授業内容はバラエティ豊かでしたが、学習者の熱心さはどのクラスも共通で研修に対する真剣さが伝わってきました。

このような教務課による研修の他にも、定着指導課による定着地での生活アドバイス、職業指導や求職票の作成、宿泊棟での生活指導や健康管理など、幅広い分野での教育研修が実施されています。



ボランティアもともに学び合う実習

センターでの研修の中に「ボランティア参加型学習活動」があります。これは、実際の体験とそのフィードバックを通して学習する「実習」にボランティアに参加してもらうもの。あらかじめ登録されたボランティアに、実習の内容や学習者の年代などに応じて参加を呼びかけるものです。具体的には、趣味の話題などでコミュニケーションする歓談形式の活動、中国や日本の文化などを紹介する活動、ゲームやスポーツをともにする活動、買い物の補助など日常生活場面の課題を手助けする活動などがあります。

この場合のボランティアは教師の代行やアシスタントではなく、ひとりの日本人として学習者に接することが求められます。ボランティアが学習者に与えるのではなく、コミュニケーションによって文化的・社会的な違いを理解したり、ボランティアも学習者もともに楽しみながら学び達成感を得ることがこの活動の目的です。また、この他にも老人会を母体とする地域のボランティア団体との共催で、お花見・盆踊り・忘年会・音楽交流会なども開催されています。ここでいっしょに学んでみたいと思われた方は、ボランティア登録をしてみたいでしょうか。

こうして4か月の研修期間が終わると、身元判明者は肉親等のもとに落ち着くこととなりますが、身元未判明者には定着先や身元引受人を斡旋することとなります。この身元引受人は孤児問題に関心と理解を持ち、一定の条件をクリアした人々で、約1100名が厚生省に登録されています。

緑ゆたかな環境の中で温かな人々と同じ立場の仲間たちに囲まれたセンターでの生活は、まだまだ温室のなかの世界かもしれません。これから社会に出てゆけば、さまざまな障害にぶつかることもあるでしょう。それでも、ここでの真剣なまなざしを忘れずに前進してほしいと願わずにはられません。研修を修了していった人から就職や進学のお知らせが来たときが一番うれしい、という池上先生の言葉が印象的でした。

(写真提供/中国帰国者定着促進センター)

日本語教師と日本語ボランティアについて

大阪大学留学生センター

西口 光一



日本語ボランティアの活動について最近感じていることを述べたいと思います。日本語ボランティアの活動というのは一体何なのだろうという問題です。

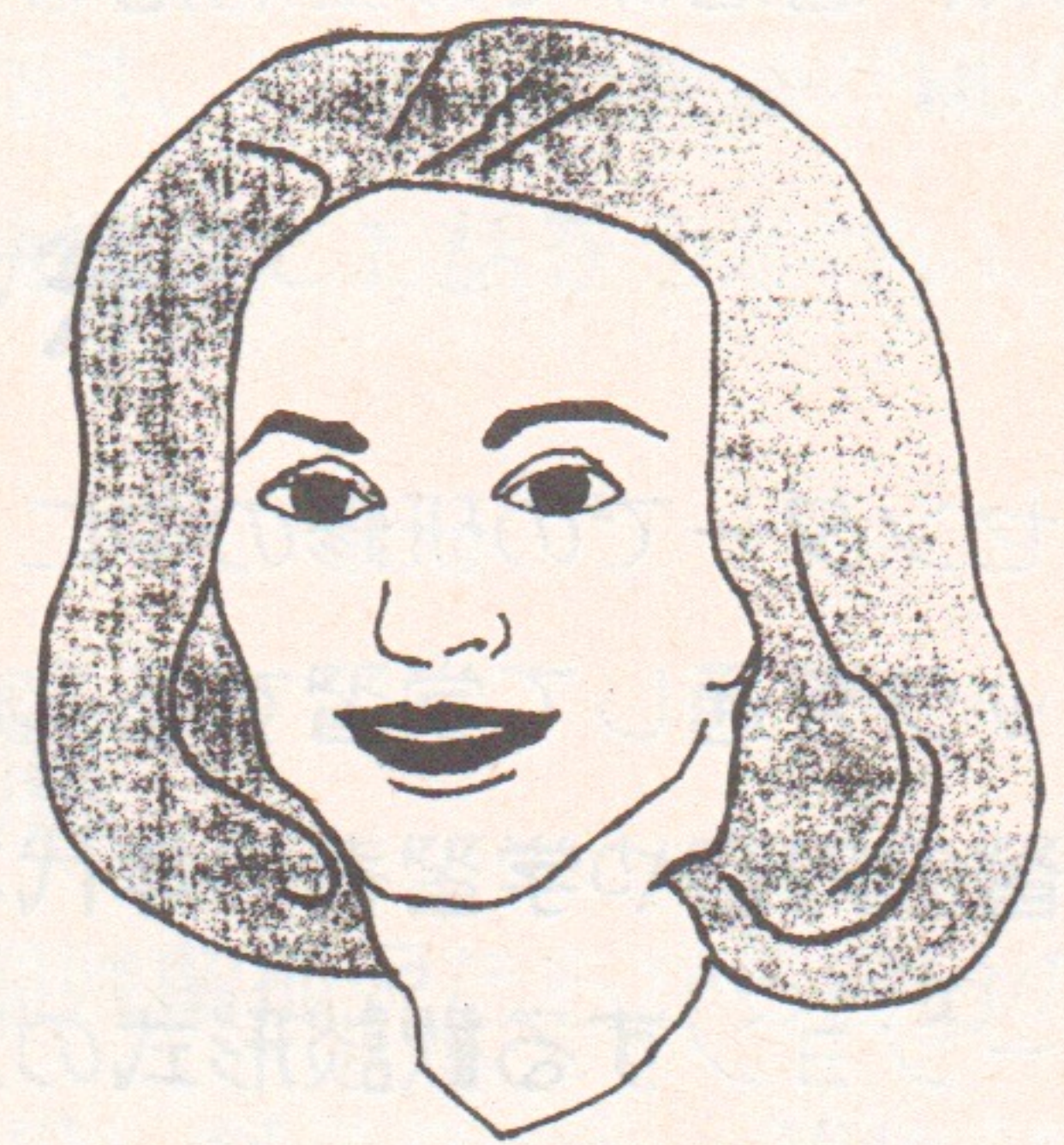
外国人留学生が進学のために日本語を学ぶ場合、あるいはビジネスマンなどが仕事のための道具として日本語を学ぶ場合と、外国人居住者が地域の日本語教室で日本語を学ぶ場合を比べてみましょう。簡単に言うと、前者ではある目的のための道具として日本語を学んでいます。そこでは、日本語学習は道具獲得のための手段であるので、できるだけ効率的に行われるのがよく、また、日本語教師は本来学習者の友人というものではなく、学習者の日本語習得を効率的に援助すべき専門家であるべきだということになります。では、外国人居住者が地域の日本語教室に来る場合はどうでしょうか。もちろん、日本語の勉強は日本語教室に来る目的の一つにはなっているでしょう。でもその他に日本人の友人がほしい、同国人あるいは他の外国人と交流・交友の機会を持ちたい、日本の生活や今まさに住んでいる町にもっと馴染みたい等さまざまな動機があると思います。そして、多くの場合そのような学習者の期待を反映して、交流会や料理教室や各国文化紹介のイベントなどが日本語教室と並行して行われます。

さて、日本語教室は日本語を習得するという目的があるので、一見「目的のための手段」のように見えます。しかし、日本語教室はそれ以外のさまざまな交流活動と同様のものであるというふうに見ると、違ったふうに見えてきます。

私は、日本語教室の活動も含めてこれらの活動はすべて国際文化活動というべきものではないかと思っています。文化活動というのは、そもそもそれによって何かの目的のために使える技能や知識を身につけるといった性質のものではありません。むしろ、参加者みんながそのイベントを創り出し、そのイベントあるいはそれに参加すること自体に意義や楽しさを見出すのが文化活動というものだろうと思います。

各国の料理教室や文化紹介のイベントなどはこのような見方にほぼぴったり当てはまるでしょう。そして、日本語教室もそのような国際的な文化活動の一環であると考えれば、日本語教室に参加すること自体に日本語ボランティアも外国人学習者も意義や楽しみを見出すはずのものなのだとということになるわけです。そして、日本語ボランティアも、日本語習得という目的の達成を援助する協力者であるとともに、外国人学習者と同じイベントの参加者であるということになります。

日本語学校の教師と日本語ボランティアはどう違うのかという議論がしばしば行われますが、私はその違いは日本語学校とボランティア日本語教室という場の性質の違いにあるのだと思います。ですから、昼間日本語学校の先生をしている人が、夕方日本語教室のボランティアをしてもいいのです。ただし、昼間はいわば日本語の先生として学習者とかかわるでしょうが、夕方になったら、日本語を教えながらも、日本語の先生という昼間の仮面は捨てて、近くに住んでいる友人という形で学習者とかかわってほしいと思います。日本語ボランティアとして日本語の教え方を勉強するのはもちろんいいことだと思っています。でもそのために、今までよき友人として外国人の人たちと接していた日本語ボランティアが、日本語の先生っぽくなってしまったり友人でなくなってしまうならば、こんな不幸なことはないと思います。日本語の先生っぽい日本語ボランティアというのは、日本語教室には似合わないと思います。ボランティア日本語教室というのは本来そんな場なのだろうと思います。(協力会員)





日本語ボランティアQ&A



日本大学講師 福田 知行

Q：最近日本語ボランティアをやり始めたのですが、何をどう教えたらいいのかわからなくて困っています。教科書などもどんなものを使ったらいいのでしょうか。

A：日本語ボランティアについてはいろいろな考え方があります。初めは日本語で困っている外国の人を助けてあげられればと思って始めたのが、いざやってみると日本語を教える勉強をしなければいけないらしいとか、自分では解決出来ない相談を持ち込まれて困ったとか、様々な問題が出てきます。個人的な考えを言わせていただければ、日本語ボランティアは日本語「教師」になることはやめ、外国の人の「友人」または「隣人」として付き合っていくらどうでしょうか。友人ならばちょっとわからない日本語を教えてあげることもできますし（「そんなこと分からない」と言うこともできます）、日本語以外の問題についても自分より知っていそうな人に相談したり紹介することぐらいはできると思います。ちょっと肩の力を抜いてみることも必要ではないでしょうか。 (協力会員)



新入会員のご紹介

日本語ネットワークニュース第5号では1995年4月までに加入された皆さんをご紹介しましたので、ここでは95年5月以降に加入された会員の方々をご紹介いたします。 (敬称略)

- ◆団体会員 あいうえお、市川ユネスコ協会日本語教室、保谷にほんご教室
 - ◆協力会員 簗手奈保美、浜田和子、牛窪章子、森田宏子、清水俱二子、長野たみ子、篠原雅子、岩田裕子、山崎洋子、堺 由美子、松岡敏江、五島和子、宮崎達子、小玉佑子、岩下佳世子
- 1995年7月末現在の会員数は、団体会員73団体、協力会員92名、賛助会員7団体です。

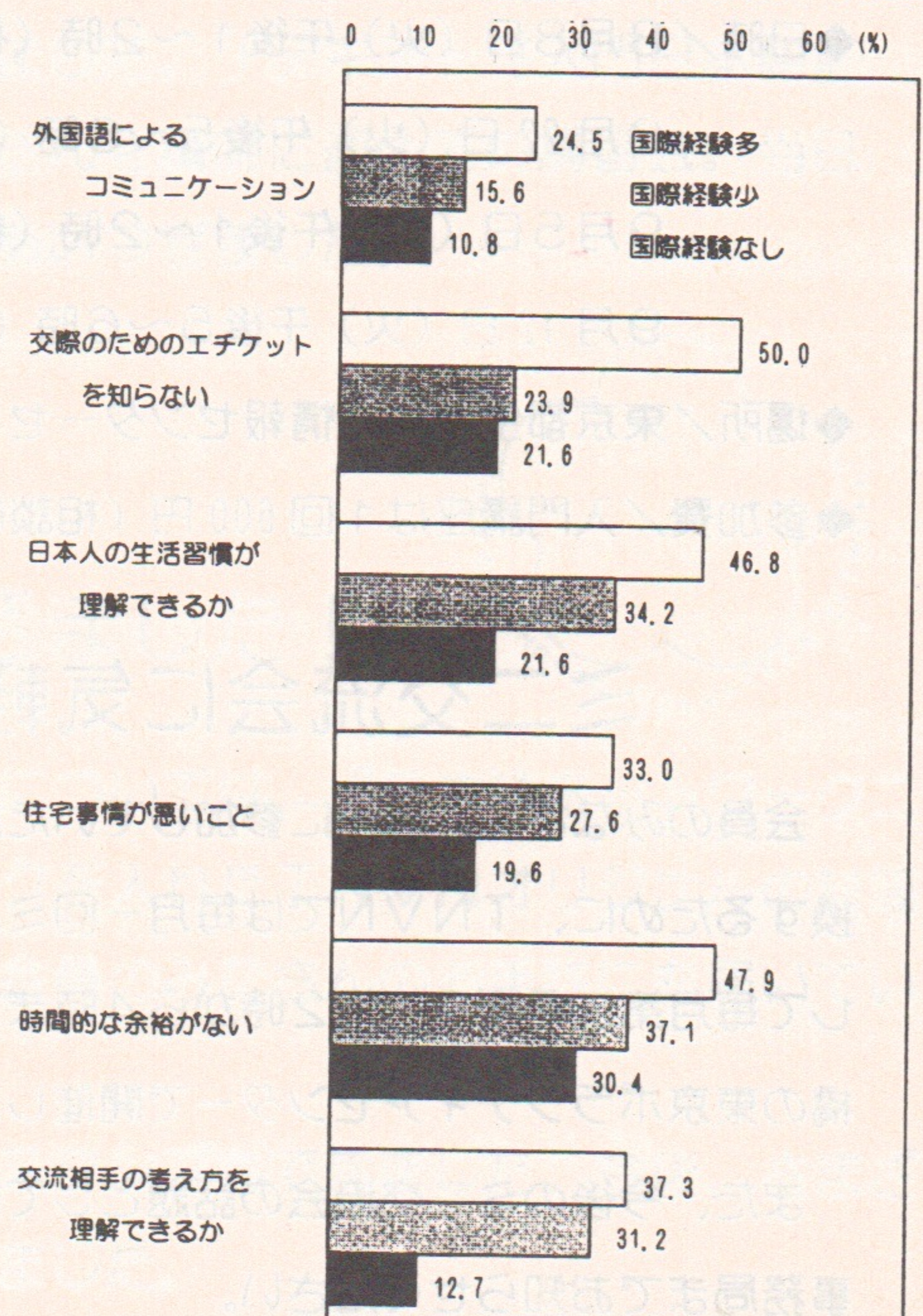
国際交流の制約となるものは？

— 国民生活白書より —

国際化時代と呼ばれて久しく、海外旅行や日本国内での外国人とのおつきあいなど、私たちが外国人と交流する機会はますます増加しています。平成5年版の国民生活白書によると、国際経験がゆたかな人ほど交流に不安を感じる割合は少なくなっていますが、やはり「外国語によるコミュニケーション」が一番の不安となっているようです。また、国際交流に対する基本的な考え方としては、「お互いの生活習慣の違いを理解し、互いの生活習慣を取り入れて交流する」という相互理解型が72%で、外国人に日本の生活習慣への順応を要求するのは24%となっています。国際交流には、お互いの文化や生活の差異を尊重し、理解を深めあう積極的な努力が不可欠でしょう。

▲ 国民生活白書のデータから

外国人と交流する際に心配をしていないと答えた人の割合



NETWORK INFORMATION

とみん情報システム（愛称「とみんず」）への 文化学習団体登録のご案内

東京都ではコンピュータを利用した「とみん情報システム」を開発し、文化・スポーツ施設・文化学習団体・催し・講座などの生涯学習情報をはじめ、都民生活に関する各種の情報を提供しています。情報の内容は次の通りです。

①団体名 ②所在地又は住所 ③活動分野 ④連絡先 ⑤責任者名 ⑥会員数 ⑦会費・入会金 ⑧活動状況など

これらの情報は、都の施設、区役所などの公共機関にある端末機から取り出すことができます。この「とみん情報システム」に登録を希望される団体の方は、ネットワーク事務局に郵送料270円切手を同封の上、お申し込み下さい。詳しい資料と登録用紙をお送りいたします。

アンケートにご協力ありがとうございました

4月より開始しました「東京ボランティア日本語教室ガイド」改訂版作成のためのアンケート調査によると、大分新年度に入り変更がありましたので、とり急ぎ、訂正表（95年6月30日現在）を作成しました。ただ今、会員の皆様にご活用いただいています。もし訂正表に誤り、変更等がありましたら、お手数ですが、ハガキ又はFAXで事務局宛お知らせくださるよう、お願いいたします。なお、次回発行の「ガイド」には、日本語ボランティアの会費、会のキャッチフレーズ、最寄りの駅から教室までの地図などの情報が掲載される予定です。

日本語ボランティア相談と入門講座を継続中

TNVNではこの春から日本語ボランティア相談と日本語ボランティア入門講座を好評のうちに開催しています。入門講座は、8月は「日本語を教える上での問題点」、9月は「ボランティア日本語教室の開設・運営」をテーマに、それぞれ午後と夜間に開催。また、日本語ボランティア相談窓口では、日本語教授法や文法、法律問題、グループ運営など、幅広い分野のご相談に経験豊富なスタッフがお答えいたします。なにかご質問がありましたら、直接会場までおいでください。

◆日時／8月8日（火）午後1～2時（相談窓口）、午後2時～4時（入門講座）

8月22日（火）午後5～6時（相談窓口）、午後6時～8時（入門講座）

9月5日（火）午後1～2時（相談窓口）、午後2時～4時（入門講座）

9月12日（火）午後5～6時（相談窓口）、午後6時～8時（入門講座）

◆場所／東京都生涯学習情報センターセミナー室（JR／地下鉄、有楽町駅下車3分）

◆参加費／入門講座は1回600円（相談は無料）

ミニ交流会に気軽にご参加ください

会員みなさんに自由に参加していただき、ネットワーク活動への意見や情報を交換するために、TNVNでは毎月一回ミニ交流会を開催しています。今後も、原則として毎月第三月曜日午後2時から4時まで開催の予定です。9月は18日（月）に飯田橋の東京ボランティアセンターで開催しますので、どうぞお気軽にご参加ください。

また、今後のミニ交流会の話題として取り上げてほしいテーマがありましたら、事務局までお知らせください。

TNVNへの

問い合わせ・申込み等は
下記まで郵便またはFAX
でお願いいたします。

東京日本語ボランティア
ネットワーク事務局

〒162 東京都新宿区

神楽河岸1-1

東京ボランティアセンター

気付

FAX：03-3235-0050

Bulletin Board

江戸川★モスクワ★ニューヨーク サマーコンサート

江戸川区少年少女合唱団（江戸川区）・プレアブラジュニエ合唱団（モスクワ）・垂水ヴァイオリンプログラム（ニューヨーク）のジョイントによるサマーコンサートが開催されます。興味がある方はぜひお越しください。

◆日時／8月11日（金）午後6時30分開場、午後7時開演

◆場所／江戸川区総合文化センター 小ホール

◆入場料／前売り券 1500 円、当日券 2000 円

◆問い合わせ／TEL；03-3686-7715（伊東）、FAX；03-3688-4409（菊地）

◆主催／清新女声合唱団 ◆共催／江戸川ホームステイクラブ ◆後援／江戸川区

*同様のコンサートが8月13日（日）に神戸でも開催。詳細についてはお問い合わせください。

バーベキュー大会

夏の日をみんなでバーベキューをして楽しみましょう。

◆日時／8月12日（土）

17:00～21:00（雨天中止）

◆場所／大谷戸公園（多摩市連光寺）

◆参加費／会員（中学生以上）500 円

非会員 1,000 円

◆定員／100 名

◆問い合わせ／多摩市国際交流センター

☎0423-38-6833（文化事業課）

墨田区国際交流サロンへどうぞ

墨田区ではこの7月から「国際交流サロン」をスタートしました。これは、毎月一回パーティー形式で気楽に歓談を楽しみながら国際交流をはかってもらおうというもので、墨田区が場所と飲み物やお菓子などを提供し、ボランティアが運営をするもの。墨田区の住民でなくても自由に参加できますので、お誘い合わせの上ご参加ください。

◆日時／毎月第二金曜日（8月11日、9月8日）

午後6時30分から8時30分

◆場所／すみだ生涯学習センター ホール（墨田区東向島2丁目）

◆参加費／無料

◆問い合わせ／墨田区国際交流担当 ☎03-5608-6212

TOPICS

「太陽の家」園生とともにボランティア体験活動に参加して

勤労者ボランティアセンターの主催で、障害者施設「太陽の家」園生とボランティアが1泊2日のスケジュールとともに作業をするボランティア体験活動が、7月15・16日に奥多摩で開催。このボランティア体験活動に参加した外国人の日本語学習者から感想をよせていただきました。

劉 剛さん（中国） 山での活動のおかげで、いつも運動不足の私はすっきりしました。ボランティア活動を通して、自分から直接まわりのひとに何かをすることができるようになりました。また、日の出町の散策に参加したとき、マラソンをする人に会うたびに「がんばって」と声をかけました。後で思い出したとき、これもボランティア精神かなとおもいました。

ラルフ・シアさん（ドイツ）日本のビジネスマンや中国・韓国からの学生、そして特にハンディキャップのある人たちと2日間を過ごせたことは、すばらしい体験でした。森の中でいっしょに働き、木を切りました。慣れていない私は汗をかきましたが、彼らを見てがんばりました。夜はうたったり、パーティをしたりして、日本語の上手でない私でも充分彼らと心を通じさせることができましたと思います。また、このような機会があれば良いと思います。

SPECIAL THANKS TO ...

- ◆中国帰国者定着促進センター様/ニュースレターの取材に快く応じていただきました。
- ◆(株)アルク様/ミニ講習会の開催にご協力いただきました。
- ◆KDD国際電信電話(株)様/サポートプログラムによる支援金、
ニュースレターの印刷にご協力いただきました。
- ◆甲斐武子様/シンボルマークのスタンプを作成していただきました。

FROM EDITORS

ホットニュース
10月より開始の水曜日講習会を担当して下さる有馬俊子先生の著書
「続・日本語の教え方の秘訣」上・下巻 8月中旬発売!

7月、8月と言えばレジャーシーズンは皆が
うらやまそうだが、日本語ボランティアという
世界に身を置く我が身は、外国の人達の世話を
するときに他の日よりも忙しい過労状態
に陥ることが多い。でもその喜びは比べ
れば、なんとええものぞきと云っているわ。
M.W.

主婦の私にとっては、恐怖の
夏休みです。ゴロゴロしている
豚見どもを尻目にボラセンに
出てきています。 (田)

ブラジルのジャングルみたいだと
皆が言いました。流石の私も
思わぬ納骨。アメリカだタイだ
ヨーロッパだという友人のバケーション
計画をシリメにジトーツと東京でかんばるかわいそうなお私 (S)

TNVNのこと、自分のグループのこと、家のこと。
何が一番大切なのか。皆大切。がんばら
な。 K.O.
初めて「箱根会議」に参加し
全国から集まった国際交流団体の
の方たちにお会いして、その
熱気にあてられました。 R.H.
夏休みは9月まで
おあずけ。もうひとが
いざり... KYOKO

'95.上半期も仕事終了。
後半もスタッフのバツが
続いてくれますね...
日々祈るのみ。NT.

ニースから10月の30日のボラセン
日本語ボランティアの楽しい日々。
ようやく主婦感覚を取り戻し、
TNVNのスタッフ活動にも参加。
Y.Y.

電話、FAX、パソコン通信、email...
世の中便利になるのはいいけれど、仕事と、とってしまえば... (S)
万々野望よろしく、後の方でいつも野次ばか
とほしていた私に、ひょんなことから今年もサマ
ソニアの一角を担当することに出来るたえい
ア・ユ・カイキキ
ほんの微々たるお手伝いでもできれば (S)
幸せ! 邪馬にされぬよう頑張ります。
よろしくお願ひ致します S.O.

編集後記

- ☺ この4月から、東京ボランティアセンターのTNVN担当が柴田さんから池田さんにかわりました。また、2代目のTNVN担当の柴田さんと初代担当の後藤さんが5月にご結婚なさいました。ふたりのロマンスにTNVNは少しは貢献したかも...なんてことはないでしょうけど、おめでとうございました。
- ☞ 夏休みになって、ボランティアセンターも高校生や大学生など若い人でにぎわっています。『夏休みボランティア体験』も大盛況とか。この夏もステキな出会いがたくさんありますように... (Paw)
- ☞ 私がニュースレター編集に関わるようになったのは今年の総会臨時号に始まり、第4号、第5号、ついに第6号完成。今回はやっと入力終了と思ったらフロッピーが壊れてしまった。ガーン!! (S)
1週間後にはアメリカ旅行が待っている。何としても入稿日には間に合わせなければ。アセアセ。